

第1回 自己点検アドバイザーボード

議事次第

【日 時】 2022年10月26日（水） 10:30～ （1時間半程度）

【場 所】 オンライン会議（Zoom）

【議 題】

1. 統計エキスパート人材育成プロジェクトについて
2. 自己点検の進め方について
3. その他

【資 料】

資料1 統計エキスパート人材育成プロジェクトの概要

資料2 自己点検 実施方針

資料3 自己点検の進め方

資料4 自己点検 アンケート票

参考1 自己点検アドバイザーボード 参加者名簿

参考2 プロジェクト公募要領等（抜粋）

統計エキスパート人材育成プロジェクトの概要

統計エキスパート
データサイエンスの未来を切り拓く

本プロジェクトは、大学統計教員を育成し、
大学教員が全国の大学等に中核となってさらに統計エキスパート
人材育成の好循環システムの構築を目指します。

2022年10月26日
第1回 自己点検アドバイザリーボード

大学統計教員育成センター長
千野 雅人

プロジェクトの骨格

コンソーシアム

中核機関・統数研

参画機関・大学等

2年間の研修を3期

大学統計教員育成研修

シニア教員

助教・
PD等

諸科学分野の
若手研究者

統計エキスパート
育成システム

大学統計
教員

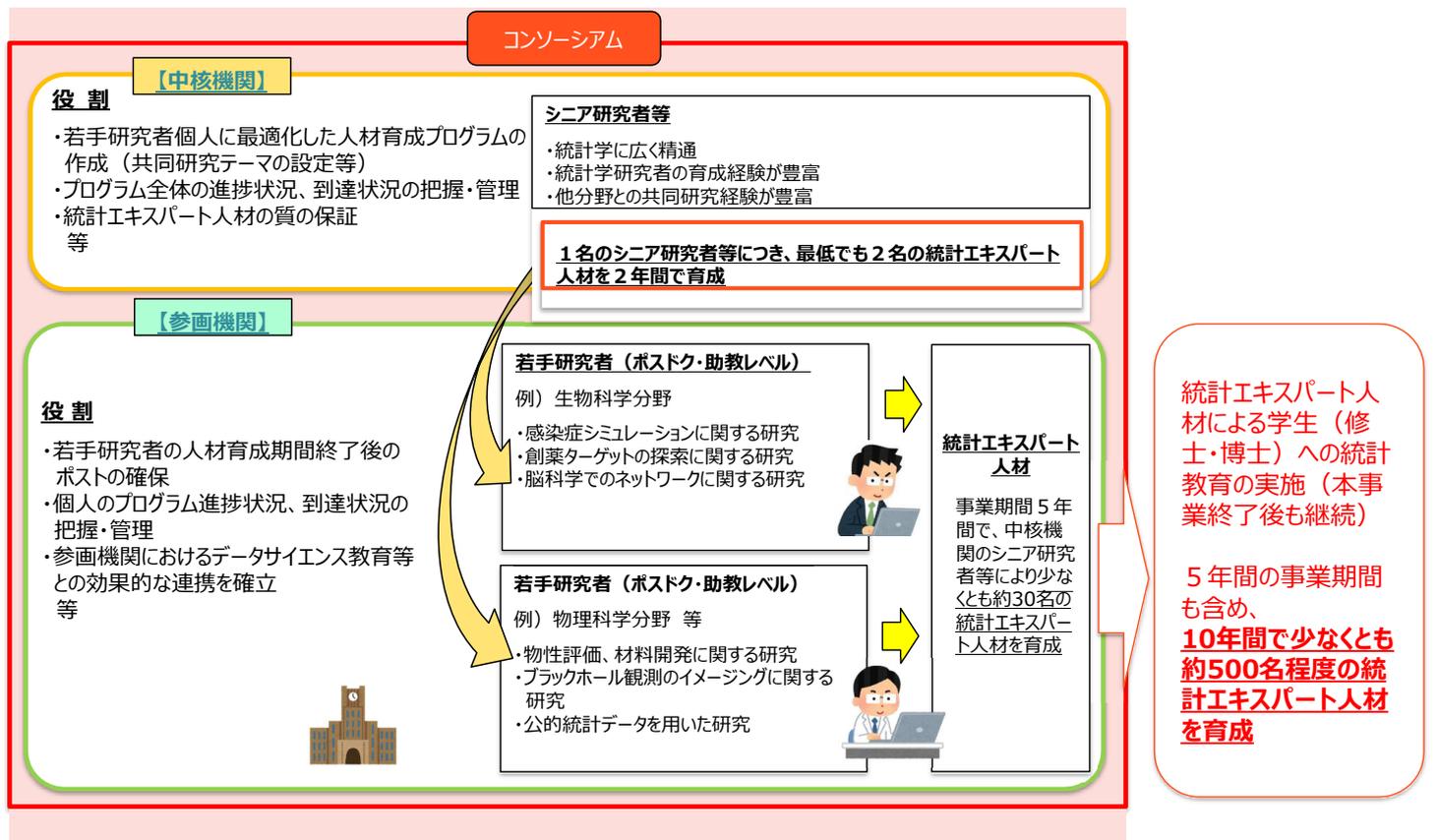
5年間で30名以上

大学院
生

諸科学分野の
修士学生

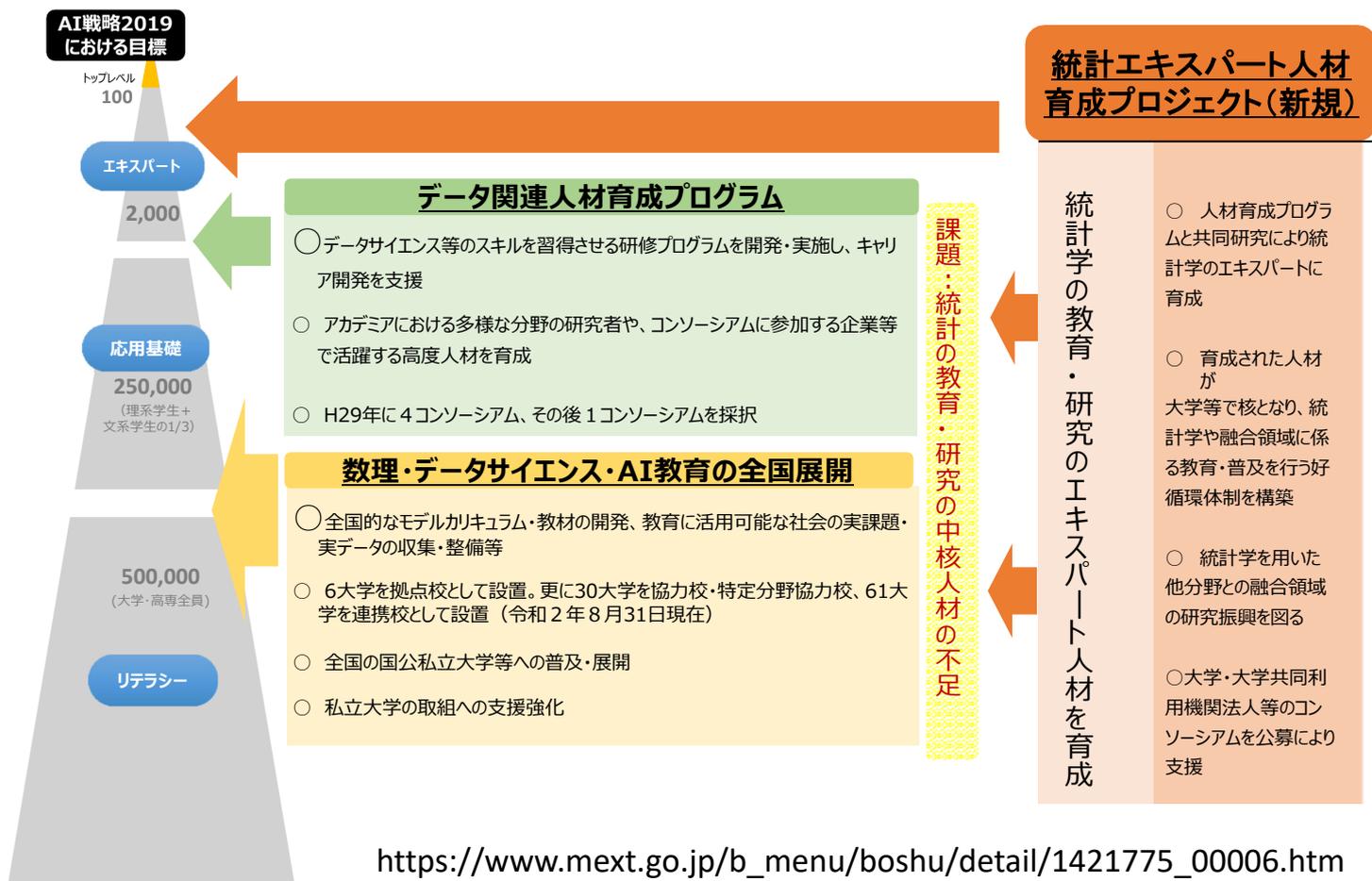
統計
エキス
パート

10年間で約500名



https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1421775_00006.htm

関連施策との関係 (2021年4月 文科省公募説明資料)



プロジェクトの概要 ~ コンソーシアムの運営

統計エキスパート人材育成コンソーシアム

構成員

- 中核機関** ~ 統計数理研究所（中心的役割を果たす機関）
- 参画機関** ~ 全国25の大学等（協働して事業を実施する機関）
- 協力機関** ~ 全国4の大学等（事業に協力する機関）

※ 参画機関には、事業担当教員と研修担当教員を配置
 ※ 協力機関は、教材・カリキュラム開発、知識・力量測定などに協力する機関、事業期間中に参画機関となる見込みの機関など

- **協力機関** ~ コンソーシアムの活動がより効果的に進み、参画機関の拡充がより円滑に進むよう、構成機関に追加

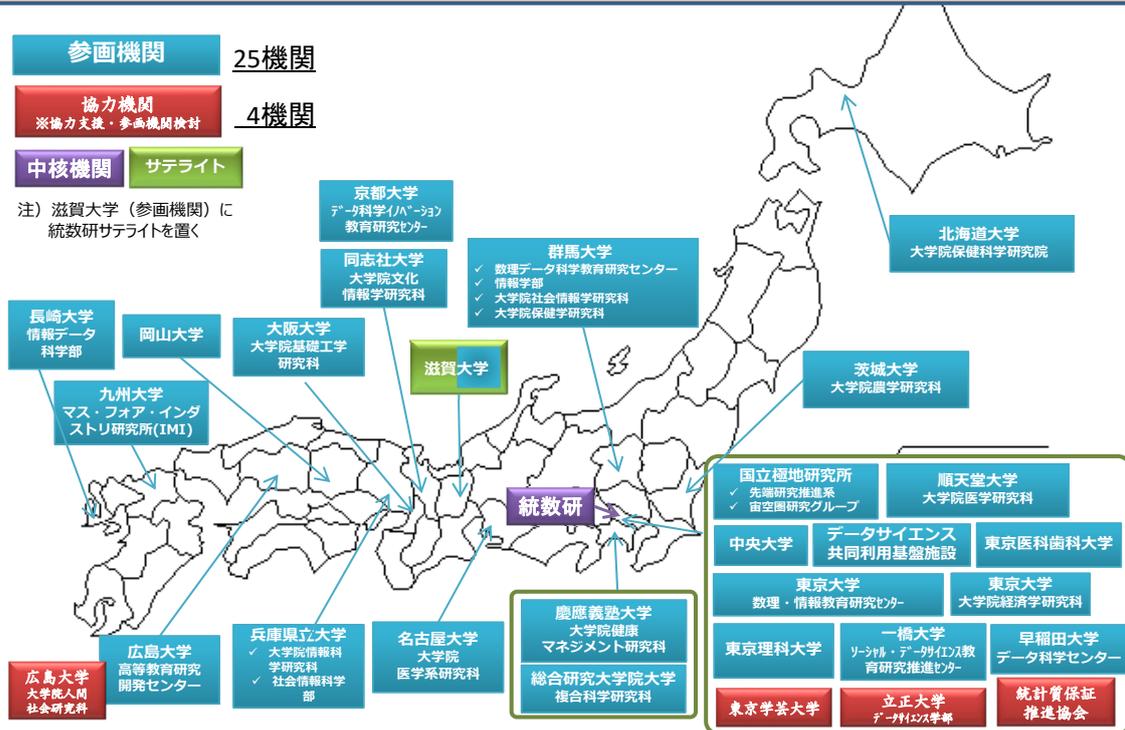
運営組織

- ・ **総会** ~ 中核機関・参画機関・協力機関の全会員
- ・ **運営委員会** ~ 中核機関・統数研5名、参画機関・大学等5名
- ・ **事務局** ~ 統計数理研究所 大学統計教員育成センター

※ 規約には、各種の形式等を細かく定めず、機動的・柔軟な対応が図られるよう、配慮（公募要領に、中核機関など会員の一定の役割が予め定められている）

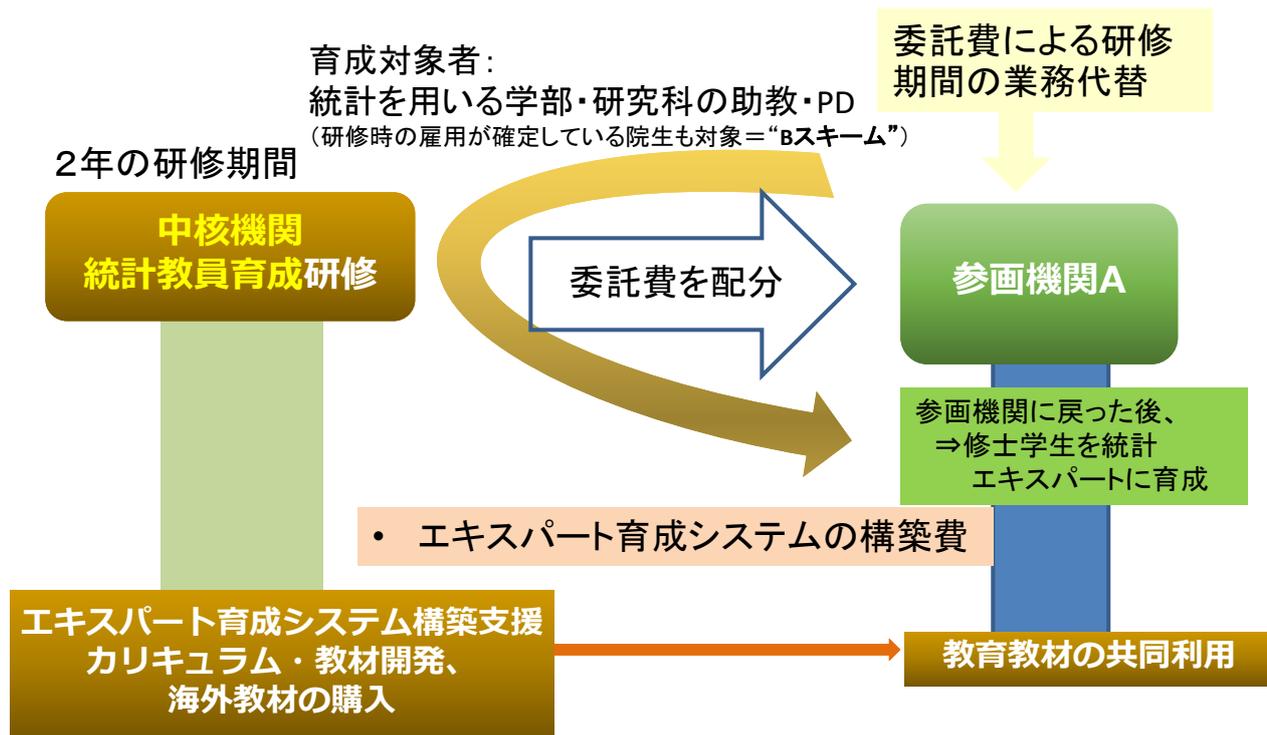
「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」 会員

○ 2022年度に、北海道大学など4機関が、新たに参画機関に加入



コンソーシアム 中核機関と参画機関の関係

A.標準型スキーム(往復スキーム)



コンソーシアム 中核機関と参画機関の関係

C.供出専門型 スキーム(片道スキーム)

D.受入専門型 スキーム(片道スキーム)

派遣対象:
統計を用いる学部・研究科のPD,助教(+博士課程の学生)

任期3~5年の公募
任期は情シス機構の募集ルールによる

統数研自己資金予算による雇用

中核機関
統計教員育成事業

採用した助教の再就職を支援

カリキュラム・教材開発、
海外教材の購入

参画機関C

博士取得見込みも助教として採用する
博士は原則として参画機関Cにおいて取得

論博
社会人学生

参画機関Dの採用スキームによる選考

参画機関D

参画機関Dに就職した後、
修士学生を
統計エキスパートに育成

教育教材の共同利用

授業補助のRA人件費
教育のための設備費

大学統計教員育成研修 スケジュール

大学統計教員育成研修 スケジュール

第1期: 2021年10月 ～2023年 9月
第2期: 2023年 4月 ～2025年 3月
第3期: 2024年 4月 ～2026年 3月

各期4クール
 (半年ごと)で、
 基礎から発展、
 個別科目へ

育成研修	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
第1期研修	←————→				
自己点検		←→			
第2期研修			←————→		
中間評価			←→		
第3期研修				←————→	

評価・改善の取組

2022年10月(第1期開始1年後) ～ **自己点検** (統数研) ⇒ 第2期の改善へ
 2023年10月(事業開始3年目) ～ **中間評価** (文科省) ⇒ 第3期の改善へ

大学統計教員育成研修 ～基本的考え方～

大学統計教員 育成研修の基本的考え方

- 1. 主たる目的は、大学統計教員の育成**
 ～統計学者の育成ではなく、育成対象者の専門分野を尊重
- 2. 修士課程学生に対する 4科目の講義を可能にする**
 ～「基本的な統計学の講義」・「発展的な統計学の講義」・
 「専門分野と統計学が融合した講義」(2科目)
- 3. 研修の基本は、講義体験の繰り返しと達成度の確認**
 ～ 達成度WG(育成対象者・研修担当教員・メンター・副メンター等)
 により、各育成対象者の研修進捗状況・達成度を確認
- 4. 育成対象者の研修計画・研究計画を、半年ごとに策定**
 ～シニア教員は、全員で互いに協力して研修をサポート
- 5. 教員育成の方法を開発する**
 ～ 日本には、大学教員を育成するという発想がない

大学統計教員育成研修 研修科目・カリキュラム

育成対象者全員に必要なスキル

各自の研究ニーズに応じたスキル

基本科目

(基本1) 「統計ベースライン特習」

分野共通の統計学的知識について、
不足している知識体系を補充

(基本2) 「統計教育力育成演習」

模擬講義や作問練習などによって、
目指す分野における教育力を育成

(基本3) 「統計研究力強化演習」

論文執筆技術、着実に研究業績を
挙げる能力
准教授以上に要する、
学生に研究させる能力 = 研究指導力
(参画機関でのFD活動)

個別科目

(個別1) 先端的データサイエンス特論

(例) I 因果推論、II 先端的機械学習、
III スパースモデリング
先端的データサイエンスの理論を習得
対象者に要する技術によって科目を選択

(個別2) 先端的データ分析演習

実データの性質にあった分析方法を選択
最先端の統計理論、機械学習技術を実際に使用

(個別3) コンサルテーション演習

実問題に対するコンサルテーション能力を育成

(個別4) 教材開発演習

対象者の進路にあった教材開発技術を習得
教科書の執筆、教育用データの作成のスキルも学ぶ

(個別5) 共同研究演習

企業や公的機関からの研究課題に対し、
ステークホルダーや教員とともに共同研究

大学統計教員育成研修 ～ 育成対象者とシニア教員

第1期研修 育成対象者(12名)とメンター(6名)の配置

参画機関	学位	メンター	副メンター
東京医科歯科大学	博士(工学)	岩崎	折笠
兵庫県立大学	博士(情報学)	中西	岩崎
同志社大学	博士(文化情報学)	中西	岩崎
群馬大学	博士(保健学)	岩崎	折笠
岡山大学	博士(経済学)	中西	岩崎
東京理科大学	博士(薬学)	水田	中西
東京理科大学	博士(情報科学)	国友	岩崎
滋賀大学	博士(工学)	神保	中西
滋賀大学	博士(工学)	神保	中西
長崎大学	博士(理学)	折笠	岩崎
国立極地研究所	博士(情報)	水田	岩崎
統計数理研究所(C方式)	博士(経済学)	国友	中西

【メンター(シニア教員)】

岩崎 学、折笠秀樹、国友直人、神保雅一、中西寛子、水田正弘

2021年度 活動概要

○ 8月31日のコンソーシアム設立総会以降、令和3年度人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金を活用し、中核機関・参画機関・協力機関が一体となって今後の活動基盤を整備

年月	コンソーシアム	研修部関係	統括部関係
令和3年 4月	文部科学省による「令和3年度統計エキスパート人材育成プロジェクト」公募開始（2日、応募申請5月6日）		コンソーシアム設立に向けた事前説明会（16日）
6月	文部科学省による統計エキスパート人材育成コンソーシアムの事業採択（23日）、 「令和3年度人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金」交付申請（28日）		
7月	「令和3年度人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金」交付決定（8日）	第1期育成対象者【A方式】の推薦依頼・【C方式】の募集開始（14日。【A方式】8月6日締め切り）	予算執行開始（8日）
8月	「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」第1回総会、第1回運営委員会（31日）	コンソーシアム選考委員会による育成対象者【A方式】の選考（12日、23日）。育成対象者【C方式】の応募締め切り（13日）	「令和3年度委託費配分の基本的な考え方」の運営委員会での承認
9月	第2回運営委員会（28日）	コンソーシアム選考委員会による育成対象者【A方式】の決定（3日）。メンター教員の拡充	「業務計画書を含めた委託契約書」参画機関との内容調整（～12月初旬）
10月		第1期研修の開始（開講式4日）、全体研修・模擬講義（18日～11月29日）	委託契約の締結（15日～12月13日）
11月	第3回運営委員会（19日・メール審議）	メンター教員の拡充	協力機関の追加
12月	第4回運営委員会（28日）	統計数理研究所による育成対象者【C方式】の選考・決定。全体研修・模擬講義（22日～1月24日）	
令和4年 1月	統計数理研究所「大学統計教員育成センター」正式発足（1日）		委託契約関連事務マニュアル（第1版）の参画機関等への提供（14日）
2月	第1回統計エキスパート育成システム構築・育成センター設立記念ワークショップ（1日）、 コンソーシアムHPの運用開始（16日）		委託業務中間報告書の提出（25日まで）オンライン講義演習室、研修生室等の整備
3月	第5回運営委員会（25日）	公開模擬講義（14日～4月20日）	委託業務完了届の提出（参画機関→中核機関。31日）

1

2022年度 事業計画概要

■ 2022年度事業計画では、「第2期研修の企画・準備」及び「自己点検の実施」を追加

2021年度

- ① コンソーシアムの運営
- ② 第1期教育システムの開発
- ③ 第1期研修の実施
- ④ 必要な環境整備



2022年度

- ① コンソーシアムの運営
- ② 第1期教育システムの開発
- ③ 第1期研修の実施
- ④ 第2期研修の企画・準備
- ⑤ 自己点検の実施
- ⑥ 必要な環境整備

■ 2022年度の主なスケジュール

5月1日～		第1期大学統計教員育成研修・第2クール開始
5月中旬	コンソーシアム第2回総会	
5月下旬～	2022年度参画機関等との業務委託契約事務	統計検定2級の受験チケット配布（予定）
8月下旬	第6回コンソーシアム運営委員会	第2期研修・C方式育成対象者応募締め
8～9月	第2回コンソーシアムワークショップ	統計関連学会等での発表
9月上旬	第7回運営委員会	第2期研修・A方式育成対象者推薦締め
10月上旬～	自己点検の実施	第1期研修・第3クール開始
10～11月		第2期研修・A方式・コンソーシアム選考委員会
12月中旬	第8回コンソーシアム運営委員会	第2期研修・C方式・統計数理研究所による選考
3月上旬	第9回コンソーシアム運営委員会	

1

自己点検 実施方針 ～ 統計エキスパート人材育成コンソーシアム ～

令和4年（2022年）7月29日
大学統計教員育成センター

1 実施目的

プロジェクト応募申請書の計画に沿って、事業期間初期（令和3年7月～令和4年9月）の活動状況を自ら点検し、その結果を令和5年4月開始の第2期大学統計教員育成研修などのコンソーシアム活動に反映することにより、活動の質の向上を図るとともに、コンソーシアムが目指す目的の円滑かつ効果的な達成に向けた方策の検討に寄与する。

2 基本的な考え方

- （1）自己点検は、コンソーシアム活動の質の向上等に寄与する改善につながるものであること
- （2）統計関連学会連合会員等の外部有識者の参画を得ることにより、客観性を担保すること
- （3）可能な限り作業の効率化を図りつつ、客観的な指標を活用するなどIT・デジタルに基づいて実施すること
- （4）文部科学省の事業採択通知に記載された「指摘事項」の視点を入れること
- （5）点検結果は、コンソーシアム全体で共有し、会員が一体となって改善に取り組むこと

3 実施方法

- （1）実施時期 令和4年10月～令和5年2月
- （2）実施体制
コンソーシアムに、統計関連学会連合（統計関連6学会）会員等の外部有識者（3名程度）から構成される「アドバイザリーボード」（仮称）を設置し、コンソーシアム運営委員会とも連携しつつ、自己点検を実施する。アドバイザリーボードの庶務は、中核機関（統計数理研究所大学統計教員育成センター統括部）が処理する。
- （3）実施方法
 - ① 点検項目の設定
中核機関（統計数理研究所）は、自己点検の項目や方法について、文科省の公募要領・事業採択通知書に記載された要請、コンソーシアムの応募申請書に記載した取組内容などを基にその案を作成し、アドバイザリーボードの助言（令和4年10月）を踏まえて設定する。
 - ② 自己点検の実施
中核機関（統計数理研究所）は、設定された点検項目ごとに、自己点検を実施し、自己点検報告書の案を作成する。この際、コンソーシアム参画機関から寄せられた要望・意見なども合わせて整理する。
 - ③ 自己点検報告書の作成
中核機関（統計数理研究所）は、アドバイザリーボードの助言（令和5年1月）やコンソーシアム運営委員会の意見を踏まえて、自己点検報告書を作成する。

4 自己点検結果の公表・反映

自己点検報告書やアドバイザリーボードによる助言の概要等は、コンソーシアムHPにおいて公表するとともに、第2期大学統計教員育成研修や令和5年度事業計画等に反映する。

【参考】

1. プロジェクト応募申請書（文科省提出）の記載

「（3）－4 評価と改善

令和4（2022）年10月から令和5（2023）年3月と第1期生修了時の令和5（2023）年10月から令和6（2024）年3月に、教員育成システムの実効性、特に育成研修効果の達成状況について自己点検を行い、協力機関としての統計関連学会から派遣される評価・アドバイザーボードに、自己点検結果を提出し、評価・改善のアドバイスを受ける。また、事業開始後3年度目に、所定の文部科学省中間評価を受ける。」

「1－4－2 評価・アドバイザー協力機関

統計関連学会連合（統計関連6学会連合体）等に本事業のアドバイスならびに評価を行うメンバーの派遣を依頼する。」

2. プロジェクト選定結果通知書（文科省通知）に記載された「指摘事項」

- ・ 参画機関の積極的な協力のもと、コンソーシアム全体として密接な連携体制を構築し、事業を推進すること。
- ・ 育成対象者を指導するメンターの質を適切に管理するとともに、参画機関の研修担当教員との役割分担を明確にして、事業を推進すること。
- ・ 育成対象者にとって、自身の研究業績の創出につながる取組を研修プログラムに組み込むなど、今後のキャリア形成につながっていくよう配慮すること。
- ・ 国際的に活躍できる人材を育成するために必要な機会創出等に関する方策を積極的に検討すること。
- ・ 育成研修カリキュラムにおいて、世界水準に見合う教科教育科目を設定するとともに、事業期間中に適切な見直しを行うこと。
- ・ 統計エキスパート人材の育成が計画通りに進まなかった場合の対応策等のリスク管理を検討すること。
- ・ 我が国の統計分野を支える人材の層を厚くするため、統計学以外の分野からの育成対象者も積極的に選抜し、統計エキスパート人材としての育成を推進すること。
- ・ 事業終了後も我が国の統計分野が発展していくために、博士レベルの統計エキスパート人材を育成する方策を積極的に検討すること。

3. 「統計関連学会連合」…… 次の6学会が参加

応用統計学会（会長：瀬尾隆・東京理科大）
日本計算機統計学会（会長：小木しのぶ・NTTデータ数理）
日本計量生物学会（会長：松井茂之・名古屋大）
日本行動計量学会（理事長：狩野裕・大阪大）
日本統計学会（会長：樋口知之・中央大）
日本分類学会（会長：宿久洋・同志社大）

自己点検の進め方

1. 実施体制・関係者

○ 自己点検アドバイザリーボード

【主査】 小木しのぶ 先生（㈱NTTデータ数理システム取締役、日本計算機統計学会会長）

【委員】 竹内 光悦 先生（実践女子大学 人間社会学部 教授、日本統計学会理事）

山本 義郎 先生（東海大学 理学部教授、日本分類学会幹事・評議員）

【開催時期】 第1回 2022年10月 ～自己点検の進め方・点検項目への助言

第2回 2023年 1月 ～自己点検報告書案への助言

○ コンソーシアム運営委員会

【位置付け】 自己点検報告書は、中核機関が作成、コンソーシアム運営委員会が承認

【開催時期】 2023年1月（アドバイザリーボード後）～自己点検報告書の審議・承認

○ コンソーシアム参画機関

【位置付け】 コンソーシアムの取組などに対して、意見・要望があれば提出

【照会時期】 2022年11月（アドバイザリーボード後）～点検項目を踏まえ、全参画機関にアンケート調査

○ 第1期研修生

【位置付け】 研修の内容などに対して、意見・要望があれば提出

【照会時期】 2022年11月（アドバイザリーボード後）～点検項目を踏まえ、全研修生にアンケート調査

2. 進め方

(1) 点検項目の設定

文科省公募要領・採択通知書、コンソーシアム応募申請書などを基に、自己点検項目の案を作成。
アドバイザリーボードの助言(令和4年10月)を踏まえ、点検項目を設定。

(2) 自己点検の実施

統括部・研修部において、点検項目ごとに自己点検を実施。自己点検報告書の案を作成。
この際、コンソーシアム参画機関・研修生から提出された意見・要望等を踏まえて点検を実施。

(3) 自己点検報告書の作成

アドバイザリーボードの助言(令和5年1月)、コンソーシアム運営委員会の意見を踏まえて作成。

3. スケジュール

- 2022年10月 点検項目案を作成、第1回「自己点検アドバイザリーボード」を開催
11月 コンソーシアム参画機関・研修生に対するアンケート調査を実施
12月 統括部・研修部において自己点検を実施、点検結果・課題・改善事項を整理
2023年 1月 自己点検報告書案を作成、第2回「自己点検アドバイザリーボード」、「運営委員会」を開催
2月 自己点検報告書を決定、HPにおいて公開

(参考)

- 2022年11月2日 文科省による活動状況調査(統数研サイトビジット)の実施
2023年2月 文科省によるプロジェクト推進委員会の開催(R4活動実績・R5事業計画)

3. 点検項目

統括部・研修部において、下記の点検項目ごとに、自己点検を実施
(自己点検報告書「3. 自己点検の結果」に記載)
課題に対しては、今後の改善の方向・方策も提示(自己点検報告書「4. 課題と対応」に記載)

点検分野1: コンソーシアムの運営

- 点検項目1-1: 中核機関はコンソーシアム全体を適切にマネジメントできる体制を構築しているか?
- 点検項目1-2: コンソーシアムの活動は参画機関の統計エキスパート育成に有用なものとなっているか?
- 点検項目1-3: 協力機関の取組はコンソーシアムの活動に有用なものとなっているか?
- 点検項目1-4: コンソーシアムの活動はより多くの大学等への広がりを持つものとなっているか?

点検分野2: 第1期研修の管理運営

- 点検項目2-1: 中核機関は育成対象者が研修に注力できるような支援を行っているか?
- 点検項目2-2: 研修の目的が十分に達成できるようなシニア教員の体制となっているか?
- 点検項目2-3: 研修の目的が十分に達成できるような設備・施設等を整備・管理しているか?
- 点検項目2-4: 中核機関と参画機関の役割分担・連携は円滑なものになっているか?

点検分野3: 第1期研修における人材育成

- 点検項目3-1: 育成する人材像を明確にし、それにふさわしい研修内容となっているか?
- 点検項目3-2: 育成対象者のキャリア形成、国際的活躍等に配慮した研修課程を編成しているか?
- 点検項目3-3: 育成対象者の選考の方針を明確に定め、能力・意欲を客観的に評価しているか?
- 点検項目3-4: 課程の評価や修了の基準を明確に定め、客観的・厳格に実施しているか?

点検分野4: 参画機関の取組

- 点検項目4-1: 参画機関は統計エキスパート育成システムの構築に向けた取組を進めているか?
- 点検項目4-2: 参画機関は統計エキスパート育成に有用な若手研究者を研修に参加させているか?
- 点検項目4-3: 参画機関は育成対象者が研修に注力できるような環境の整備を行っているか?

4. 自己点検報告書の構成

1. 自己点検の目的と方法

- ・自己点検の目的
- ・自己点検の実施体制・実施方法 など

2. コンソーシアムの活動実績(2022年7月～2023年9月) …できる限り客観的指標・数値で示す

- ① コンソーシアムの運営～総会・運営委員会・ワークショップの開催実績、TESS運営会議の開催実績
- ② 第1期研修の管理運営～選考委・研修部会議・達成度WGの開催実績、学会発表等の活動実績
- ③ 第1期研修における人材育成～研修生の数・専門分野、シニア教員の数・分野、各課程の実績・成果
- ④ 参画機関の取組 ～研修生派遣数、育成システム構築への取組、研修専念環境の整備 など

3. 参画機関・研修生の意見 …アンケート調査結果を記載

4. 自己点検の結果 …点検分野・点検項目ごとに、自己点検の結果・理由・根拠・課題を記載

- ① コンソーシアムの運営～マネジメント、役割分担、広がり、施策連携、自立的継続・発展
- ② 第1期研修の管理運営～役割分担、オンライン講義、大学教員の指針、研鑽(学会)、共同研究
- ③ 第1期研修における人材育成～人材像、育成プログラム、研究業績創出、世界水準、オープンサイエンス
- ④ 参画機関の取組 ～研修生派遣、育成システム構築状況、研修環境整備、役割分担 など

5. コンソーシアム活動の課題と対応

…点検分野ごとに、「3. 自己点検の結果」による課題と今後の改善の方向・方策を記載

- ① コンソーシアムの運営
- ② 研修の管理運営
- ③ 研修における人材育成
- ④ 参画機関の取組

<p>Q3-1【点検項目1-2】 機関内の大学統計教員や統計エキスパートの育成に向け、どのように委託費を活用していますか？</p>	<p>【該当する選択肢の全てに「○」印を付してください。】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施設・設備等の整備 2 図書・学術雑誌等の資料の系統的な収集 3 代替教員の確保による育成対象者の負担軽減 4 補助者の活用による育成対象者の負担軽減 5 上記以外（下記括弧内に具体的に記載してください） <p>[]</p>
<p>Q3-2【点検項目1-2】 委託費の配分に関して何か改善してほしいことはありますか？</p>	<p>【該当する選択肢の全てに「○」印を付してください。】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年度早期の委託契約締結 2 押印省略など、事務の簡素化 3 執行可否など、事務処理マニュアルの充実 4 上記以外（下記括弧内に具体的に記載してください） <p>[]</p>
<p>Q4-1【点検項目4-2】 大学統計教員育成研修への若手研究者の参加を勧奨する取組を行っていますか？</p>	<p>【該当する選択肢の全てに「○」印を付してください。（Aスキーム・Cスキーム共通）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第1期研修に参加中 2 第2期研修に推薦・応募中 3 第3期研修への参加を勧奨・検討中 4 上記以外（下記括弧内に具体的に記載してください） <p>[]</p>
<p>Q4-2【点検項目4-3】 Q4-1において、「1. 第1期研修に参加中」を選択した場合、育成対象者が研修に注力できるような環境の整備を行っていますか？</p>	<p>【該当する選択肢の全てに「○」印を付してください。（Aスキーム）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 代替教員の確保による授業負担等の軽減 2 補助者の活用による授業準備負担等の軽減 3 担当授業の削減 4 専用PC・ソフトウェアの整備による効率化 5 上記以外（下記括弧内に具体的に記載してください） <p>[]</p>
<p>Q5-1【総括的評価】 本プロジェクトの現状について、貴機関の当初の期待に比べてどのように評価していますか？</p>	<p>【該当する選択肢のいずれか一つに「○」印を付してください】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期待を超えた活動と評価する 2 ほぼ期待通りの活動である 3 期待を下回る活動である 4 まだ評価できる状態とは考えていない
<p>Q5-2【総括的評価】 Q5-1において、「1」又は「3」を選択した場合、どのような活動が期待を超えている、あるいは下回っていると考えておられますか？</p>	<p>【下記括弧内に具体的に記載してください】</p> <p>[]</p>
<p>Q6-1【総括的評価】 本事業が今後も同様な形で継続された場合、引き続き貴機関から若手研究者の派遣を行う可能性はありますか？</p>	<p>【該当する選択肢のいずれか一つに「○」印を付してください】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 毎年1名以上派遣の可能性はある 2 2～3年に1名程度の派遣の可能性はある 3 あまり派遣の可能性はない

<p>Q6-2【総括的評価】 Q6-1において、「3」を選択した場合、派遣を難しくしている理由は何ですか？</p>	<p>【下記括弧内に派遣を難しくしている理由を具体的に記載してください】 []</p>
<p>Q7 その他、コンソーシアムや中核機関の活動に、ご意見・要望等がありますか？</p>	<p>【下記括弧内に具体的に記載してください】 []</p>

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

<p>Q4-4【点検項目3-1,3-2】 Q4-3において、「4」又は「5」を選択した場合、その理由は何ですか？</p>	<p>【いくつかも】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学内の統計エキスパート育成に反映する機会がない 2 研修内容が学内の教育・研究活動とマッチしていない 3 上記以外（下記括弧内に具体的に記載してください） <p>[]</p>
<p>Q4-5【点検項目3-2】 学内の統計エキスパート育成に向け、どのようなカリキュラムや研修内容が重要だと思いますか？</p>	<p>【重要と思うカリキュラム等があれば、下記括弧内に具体的に記載してください】</p> <p>[]</p>
<p>Q5-1【点検項目4-3】 あなたが研修に注力できるような環境の整備が行われていますか？</p>	<p>【該当する選択肢のいずれか一つに「○」印を付してください】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はい 2 いいえ
<p>Q5-2【点検項目4-3】 Q5-1において、「1.はい」を選択した場合、それはどのような環境の整備ですか？</p>	<p>【該当する選択肢の全てに「○」印を付してください。（Aスキーム）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 代替教員の確保による授業負担等の軽減 2 補助者の活用による授業準備負担等の軽減 3 担当授業の削減 4 専用PC・ソフトウェアの整備による効率化 5 上記以外（下記括弧内に具体的に記載してください） <p>[]</p>
<p>Q5-3【点検項目4-3】 Q5-1において、「2. いいえ」を選択した場合、どのような環境の整備を希望されますか？</p>	<p>【該当する選択肢の全てに「○」印を付してください。（Aスキーム）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 代替教員の確保による授業負担等の軽減 2 補助者の活用による授業準備負担等の軽減 3 担当授業の削減 4 専用PC・ソフトウェアの整備による効率化 5 上記以外（下記括弧内に具体的に記載してください） <p>[]</p>
<p>Q6-1【総括的評価】 もし、本研修がこれまで通り継続した場合、貴方は、貴方の専門分野に近い研究者に、本研修への参加を勧めますか？</p>	<p>【該当する選択肢のいずれか一つに「○」印を付してください。】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 勧める 2 どちらかと言えば勧める 3 どちらとも言えない 4 どちらかと言えば勧めない 5 勧めない
<p>Q6-2【総括的評価】 Q6-1において、「4」又は「5」を選択した場合、どのような点が改善されたら勧めることができますか？</p>	<p>【下記括弧内に具体的に記載してください】</p> <p>[]</p>
<p>Q7 その他、研修の内容や進め方等について、ご意見・要望等がありますか？</p>	<p>【下記括弧内に具体的に記載してください】</p> <p>[]</p>

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

参考 1

第 1 回 自己点検アドバイザーボード

参加者名簿

委員

【主 査】 小木 しのぶ (株NTT データ数理システム取締役、
日本計算機統計学会会長)

【委 員】 竹内 光悦 (実践女子大学 人間社会学部 教授、
日本統計学会理事)

【委 員】 山本 義郎 (東海大学 理学部教授、
日本分類学会幹事・評議員)

統計数理研究所

椿 広計 (統計数理研究所 所長)

山下 智志 (統計数理研究所 副所長)

川崎 能典 (統計数理研究所 副所長)

千野 雅人 (統計数理研究所 大学統計教員育成センター長)

澤村 保則 (同センター 統括部長)

中西 寛子 (同センター 研修部長・研修主幹)

岩崎 学 (同センター 研修部 教育システム開発主幹)

プロジェクト公募要領等(抜粋)

プロジェクト 公募要領 (文部科学省)

https://www.mext.go.jp/content/20210330-mxt_jyohoka01-000013516_01.pdf

・中核機関及び参画機関は、それぞれ事業期間中の人材育成目標(人材像や人数を含む)を明確化しつつ、共同研究の活用等実践的な人材育成に取り組んでいただきます。

・事業終了後も統計エキスパート人材育成エコシステムを自立的に継続・発展させる体制を構築することを求めます。

・他の関連施策(「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」、「データ関連人材育成プログラム」と連携しながら取り組むことを求めます。

○人材育成に関する取組 (補助の対象とする取組)

- ・統計エキスパート人材を育成するために実施する人材育成プログラムの開発
- ・指導するシニア研究者等と若手研究者との共同研究を通じた人材育成の取組
- ・人材育成プログラム等のもと育成される若手研究者が行う研鑽(学会発表等)に関する取組

(3) 審査の観点(コンソーシアムの選定)

① 統計エキスパート人材の人材像

・統計エキスパート人材育成エコシステムの実現に向けて、本事業で育成する統計エキスパート人材の人材像は適切に考えられているか。

② 育成計画・目標人数

・統計エキスパート人材の育成計画・目標人数は優れているか、また実現可能性があるか(シニア研究者等1名につき、最低でも統計エキスパート人材2名を2年間で育成することを想定)。

・育成された統計エキスパート人材による、育成後に所属する各機関における人材(大学院生を想定)の育成計画・目標人数は優れているか、また実現可能性があるか(育成された統計エキスパート人材1名あたり最低でも3名を1年間で育成することが現実的に実現可能な計画を求めます(想定している育成水準も含む)。

③ コンソーシアムの体制・運営・活動

- ・中核機関がコンソーシアム全体の取組の進捗状況等を適切にマネジメントできる体制か。
- ・中核機関と参画機関の役割分担が効果的かつ効率的なものになっているか。
- ・コンソーシアムの活動がより多くの大学等への広がりを持つものとなっているか。

④人材育成プログラムの内容

- ・人材育成プログラムの内容は優れているか、また、実現可能性があるか
- ・特に、共同研究を活用した人材育成について、若手研究者とシニア研究者等との共同研究を適切に実施できる体制となっているか(マッチング、テーマの設定、進捗管理、成果公表等)。

⑤事業終了後における継続性

- ・事業終了後も統計エキスパート人材育成エコシステムを自立的に継続・発展する計画(参画機関の統計関連学部設置等の体制強化も含むとして優れているか。また、実現可能性があるか。

7 成果等の発表

本事業により得られた成果は、知的財産の保護等にご留意いただいた上で、国内外の学協会、マスコミ等に広く公表し、本事業で開発された試作品、製品等について説明・展示するスペースを設ける等、積極的に成果の公開・普及に努めてください。

選定結果通知書(文部科学省)に記載された指摘事項

3. 留意事項

本採択コンソーシアム の申請者は、次の指摘事項を留意した上で、交付申請を行うとともに、事業を実施することとする。

指摘事項:

- ・参画機関の積極的な協力のもと、コンソーシアム全体として密接な連携体制を構築し、事業を推進すること。
- ・育成対象者を指導するメンターの質を適切に管理するとともに、参画機関の研修担当教員との役割分担を明確にして、事業を推進すること。
- ・育成対象者にとって、自身の研究業績の創出につながる取組を研修プログラムに組み込むなど、今後のキャリア形成につながっていくよう配慮すること。
- ・国際的に活躍できる人材を育成するために必要な機会創出等に関する方策を積極的に検討すること。
- ・育成研修カリキュラムにおいて、世界水準に見合う教科教育科目を設定するとともに、事業期間中に適切な見直しを行うこと。
- ・統計エキスパート人材の育成が計画通りに進まなかった場合の対応策等のリスク管理を検討すること。
- ・我が国の統計分野を支える人材の層を厚くするため、統計学以外の分野からの育成対象者も積極的に選抜し、統計エキスパート人材としての育成を推進すること。
- ・事業終了後も我が国の統計分野が発展していくために、博士レベルの統計エキスパート人材を育成する方策を積極的に検討すること。

第3回プロジェクト推進委員会(文部科学省 2022/2)での主な意見

- ① 大学教員は教育を行うための教育を受けていないことが多いため、統計人材が大学で教育を行う上での指針となるもの(例えば、小学校・中学校・高等学校における学習指導要領のようなもの)を作成すると、他の分野における大学での教育のモデルケースとなるのではないかと。
- ② 引き続き、オンラインを活用した講義方法や、オンライン講義の教材等を検討することを期待したい。
- ③ 海外の事例に見られるように、統計学がベースとしてあり、その上で異分野を渡り歩ける人材を育成することも見据えて、現在の取組の深化を期待したい。
- ④ 研究DXの実現に向けては、オープンサイエンスの促進という観点もあり、統計は、メタ分析やリサーチ・シンセシスなどによって、まさにオープンサイエンスに貢献できる中核の分野。今後、オープンサイエンスの促進という観点からも、統計エキスパート人材の育成プログラムを検討してはどうか。

(推進委員会委員名簿)

https://www.mext.go.jp/content/20210617-mxt_jyohoka01-000013808_01.pdf

その他

- ・プロジェクト応募申請書の記載事項が確実に実施されているか？
(プロジェクト応募申請書 概要)

https://www.mext.go.jp/content/20210617-mxt_jyohoka01-000013808_02.pdf